

作成日：2023/08/31
改訂日：YYYY/YY/YY

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称、品番 : A C裏打ちコートホワイト

供給者の会社名称 : パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社

住所 : 大阪府門真市大字門真 1048 番地

電話番号 : 06-6908-6563 (水廻りシステム事業部 商品開発部)

項目 2 以降については別添参照

作成日 2016年6月9日
改訂日 年 月 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

商品名	AC裏打ちコートホワイト
会社名	公進ケミカル株式会社
住所	静岡県浜松市浜北区中瀬8310番地
担当部門	製造部技術グループ
電話番号	053-588-5541
FAX番号	053-588-1439
推奨用途及び使用上の制限	塗料
商品コード	9351405

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
皮膚腐食性/刺激性	区分3
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分2
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1 中枢神経 区分2 肺 区分3 気道刺激性
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分外
吸引性呼吸器有害性	区分外
水生環境急性有害性	区分3
水生環境慢性有害性	区分外

環境に対する有毒性

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気
吸入すると有害(ミスト)
軽度の皮膚刺激
強い眼刺激
吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
中枢神経系の障害
肺の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
水生生物に有害

注意書き
安全対策

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
指定された個人用保護具(保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面)を着用すること。
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
取扱後は手、顔をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

応急措置

火災の場合: 消火に炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用すること。
皮膚(または髪)にかかった場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体制で休息させること。
飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
ばく露またはその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管

吐かせないこと。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
化学名又は一般名
成分及び含有量

混合物
アクリル系塗料

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
アクリル樹脂	25~35			
アクリル酸ノルマルブチル	<1	C ₇ H ₁₂ O ₂	(2)-989	141-32-2
メタクリル酸メチル	<1	C ₅ H ₈ O ₂	(2)-1036	80-62-6
酢酸ブチル	39~49	C ₆ H ₁₂ O ₂	(2)-731	123-86-4
酸化チタン	19~29	TiO ₂	(1)-558	13463-67-7
シリカ	<1	SiO ₂	(1)-548	69012-64-2

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気の場合に移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させ毛布等で保温して安静にさせ、状態が悪い時は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合	直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、皮膚と接触した場合は直ちに多量の水または石鹼水で洗う。
目に入った場合	炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	直ちに多量の流水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。
最も重要な兆候及び症状	無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。口をすすぐ。
応急措置をする者の保護	目・皮膚の痛みや発赤、腹痛、嘔吐、頭痛、意識低下、肺水腫
医師に対する特別な注意事項	適切な保護具を着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照) 医師の手当てを受ける時は、本SDSを提示する等情報を提供する。
5. 火災時の措置	
消火剤	粉末、泡、噴霧水、炭酸ガス、乾燥砂
使ってはならない消火剤	棒状注水
火災時の特有の危険有害性	燃焼または高温下で有毒なガス(一酸化炭素)が発生する可能性がある。
特有の消化方法	初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具を着用し、風上から消火活動を行う。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止とし、風下の人を退避させる。 作業者は必ず保護具(手袋、防毒マスク、防毒衣、保護眼鏡)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出した液が環境中(下水、排水溝、地下)への流出を防止する。 万一公共用水域等に流出した場合、必要な時は関係行政機関に連絡する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	少量の場合は布や砂等で直ちに拭き取り、容器に収納する。
二次災害の防止法	大量の場合は土砂等で堰を作って流出防止を図り、可能な限り回収する。 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
7. 取り扱い及び保管上の注意	
取り扱い	
技術的対策	保護具を確実に着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照) 火気、火花、アーク、高温のもののような着火源から遠ざけること。 静電気対策を行い、防爆型の機器を使用すること。
局所排気・全体換気	容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気、全体換気装置の付いた場所で作業する。
注意事項	蒸気を発生させないようにする。
安全取り扱い注意事項	容器を転倒、落下させて衝撃を加える等の乱暴な取り扱いを行わない。
保管	
技術的対策	保管場所は耐火構造とし、床は床面に水が浸入しない構造とする。
適切な保管条件	容器に漏れの無いことを確認する。危険物施設に施錠して保管し、火気を近付けない。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	局所排気装置、防災シャワー、手洗い、洗眼設備の設置
管理濃度	作業環境評価基準 150ppm(酢酸ブチル)
許容濃度	日本産業衛生学会(2005年版) 100ppm 475mg/m ³ (酢酸ブチル) ACGIH(2005年版)
	時間加重平均(TLV-TWA) 150ppm(酢酸ブチル)
	時間暴露限界(TLV-STEL) 200ppm(酢酸ブチル)
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手足の保護具	保護手袋・長靴(有機溶剤不浸透型の静電気対策を施したものが望ましい)
目の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	有機溶剤不浸透型保護衣(静電気対策を施したものが望ましい)

9. 物理的及び化学的性質

外観	着色液体
臭い	溶剤臭
pH	データ無し
融点／凝固点	-78°C(酢酸ブチル)
沸点	126°C(酢酸ブチル)
引火点	22°C 密閉式(酢酸ブチル)
自然発火温度	420°C(酢酸ブチル)
燃焼又は爆発限界	下限:1.2% 上限:7.6%(酢酸ブチル)
蒸気圧	1.2kPa(20°C 酢酸ブチル)
蒸気密度	4.0(酢酸ブチル)
比重	1~1.2(25°C)
溶解性	水に不溶、アセトン等の有機溶剤に可溶
オクタノール／水分配係数	log Pow=1.82(酢酸ブチル)
分解温度	データ無し

10. 安全性及び反応性

安定性	通常の条件においては安定
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	高温、加熱、直射日光
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強アルカリ
危険有害な分解生成物	燃焼した時、有毒ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	アクリル酸ノルマルブチル(区分5)、メタクリル酸メチル(区分外)、シリカ(区分外)、酢酸ブチル(区分外)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分外に分類される。
急性毒性(経皮)	アクリル酸ノルマルブチル(区分5)、メタクリル酸メチル(区分外)、シリカ(区分外)、酢酸ブチル(区分外)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分外に分類される。
急性毒性(吸入:蒸気)	アクリル酸ノルマルブチル(区分3)、メタクリル酸メチル(区分5)、酢酸ブチル(区分3)であるが、製品は区分外に分類される。
急性毒性(吸入:ミスト)	酢酸ブチル(区分4)であるが、製品は区分4に分類される。
皮膚腐食性／刺激性	アクリル酸ノルマルブチル(区分2)、メタクリル酸メチル(区分2)、酢酸ブチル(区分3)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分3に分類される。
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	アクリル酸ノルマルブチル(区分2A)、メタクリル酸メチル(区分2A)、シリカ(区分外)、酢酸ブチル(区分2B)、酸化チタン(区分2B)であるが、製品は区分2Aに分類される。
呼吸器感受性	区分1に該当する成分(メタクリル酸メチル)が、カットオフ値(0.1%)以上含まれるため、区分1とした。
皮膚感受性	区分1に該当する成分(メタクリル酸メチル、アクリル酸ノルマルブチル)が、カットオフ値(0.1%)以上含まれるため、区分1とした。
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性をもつ成分のうち、濃度0.1%以上(区分1)もしくは1%以上(区分2)含まれる成分が無いため区分外とした。
発がん性	発がん性をもつ成分のうち、0.1%以上(区分1)もしくは0.1%以上(区分2)含まれる成分が無いため区分外とした。
生殖毒性	区分2に該当する成分(メタクリル酸メチル、アクリル酸ノルマルブチル)が、カットオフ値(0.1%)以上含まれるため、区分2とした。
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1に該当する成分(酢酸ブチル)が、カットオフ値(1%)以上含まれるため、区分1(中枢神経)とした。 区分2に該当する成分(酢酸ブチル)が、カットオフ値(1%)以上含まれるため、区分2(肺)とした。 区分3に該当する成分(酢酸ブチル、酸化チタン)が20%以上含まれるため、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1に該当する成分(酸化チタン)が1%以上含まれているが、粉末ではないため区分外とした。

- 吸引性呼吸器有害性 区分1および区分2に該当する成分の合計が10%未満であるため、区分外とした。
12. 環境影響情報
- 生態毒性
- 水生環境有害性(急性) アクリル酸ノルマルブチル(区分2)、メタクリル酸メチル(区分3)、シリカ(区分外)、酢酸ブチル(区分3)、酸化チタン(区分外)であるが、製品は区分3に分類される。
- 水生環境有害性(慢性) アクリル酸ノルマルブチル(区分外)、メタクリル酸メチル(区分外)、シリカ(区分外)、酢酸ブチル(区分外)、酸化チタン(区分4)であるが、製品は区分外に分類される。
13. 廃棄上の注意
- 残余廃棄物 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。
4. 輸送上の注意
- 国際規制
- 国連分類 クラス3(引火性液体)
- 国連番号 1263
- 品名(国連輸送名) 塗料(引火性)
- 容器等級 II
- 国内規制
- 陸上輸送 消防法及び道路交通法の規定に従う
- 海上輸送 船舶安全法の規定に従う
- 航空輸送 航空法の規定に従う
- 輸送の特別の安全対策及び条件 容器の輸送及び運搬は、落下、転倒、破損しないよう固定して積載すること
容器の輸送及び運搬中に、容器の著しい摩擦や動揺を起こさないよう注意する
- 緊急時応急措置指針番号 128
15. 適用法令
- 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) 第1種指定化学物質
該当しない
- 労働安全衛生法 名称等を表示し又は通知すべき危険物及び有害物(法57条 施行令18条、18条の2 別表9)
- | 番号 | 物質名 | 表示対象 | 通知対象 |
|-------|--------------|------|------|
| 第 4号 | アクリル酸ノルマルブチル | 非該当 | 該当 |
| 第181号 | 酢酸ブチル | 該当 | 該当 |
| 第191号 | 酸化チタン | 該当 | 該当 |
| 第312号 | シリカ | 該当 | 該当 |
| 第557号 | メタクリル酸メチル | 非該当 | 該当 |
- 消防法 危険物第4類第2石油類
- 船舶安全法 引火性液体類
- 航空法 引火性液体類
- 外国為替及び外国貿易法 輸出貿易管理令別表第1の16項に該当するので、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい
16. その他の情報
- 問い合わせ先 公進ケミカル株式会社 製造部 技術グループ
電話 053-588-5541 FAX 053-588-1439

参考資料

- 1) 原料メーカー発行のSDS
- 2) 溶剤ハンドブック
- 3) NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP URL <http://www.nite.go.jp/>
- 4) 安全衛生情報センターHP URL <http://jaish.gr.jp/>
- 5) GHS区分は、経済産業省HPよりダウンロードしたGHS混合物分類判定システムを参考

記載内容は現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、新たな情報を入手した場合は、追加又は改訂されることがあります。注意事項は通常取り扱いを対象としたものですが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また含有量、物理化学的性質は保証値ではありません。特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。当安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。

作成日 2015年1月21日

改訂日 2016年6月9日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

商品名	AC裏打ちコート専用シンナー
会社名	公進ケミカル株式会社
住所	静岡県浜松市浜北区中瀬8310番地
担当部門	製造部技術グループ
電話番号	053-588-5541
FAX番号	053-588-1439
推奨用途及び使用上の制限	塗料用シンナー
商品コード	9800178

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分2
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	区分3
急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
皮膚腐食性/刺激性	区分3
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2B
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分外
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分外
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1 中枢神経系 区分2 肺 区分3 気道刺激性
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
水生環境急性有害性	区分3
水生環境慢性有害性	区分外

環境に対する有毒性

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気

吸入すると有毒(蒸気)
 吸入すると有害(ミスト)
 軽度の皮膚刺激
 眼刺激
 中枢神経系の障害
 肺の障害のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 水生生物に有害

注意書き
 安全対策

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
 容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 指定された個人用保護具(保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面)を着用すること。
 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 取扱後は手、顔をよく洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。

応急措置

火災の場合: 消火に炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用すること。
 皮膚(または髪)にかかった場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体制で休息させること。
 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 ばく露またはその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 吐かせないこと。
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。
 内容物、容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報
 単一製品・混合物の区別
 化学名又は一般名
 成分及び含有量

単一製品
 酢酸ブチル

成分
 酢酸ブチル

含有量(%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
95<	C ₆ H ₁₂ O ₂	(2)-731	123-86-4

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させ毛布等で保温して安静にさせ、状態が悪い時は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、皮膚と接触した場合は直ちに多量の水または石鹼水で洗う。

目に入った場合

炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

直ちに多量の流水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。

最も重要な兆候及び症状

無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。口をすすぐ。

応急措置をする者の保護

適切な保護具を着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照)

医師に対する特別な注意事項

医師の手当てを受ける時は、本SDSを提示する等情報を提供する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末、泡、噴霧水、炭酸ガス

使ってはならない消火剤

棒状注水

火災時の特有の危険有害性

燃焼または高温下で有毒なガス(一酸化炭素)が発生する可能性がある。

特有の消化方法	初期の火災には、粉末、炭酸ガス、散水を用いる。大規模火災の際には、散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火器などを用いる。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具を着用し、風上から消火活動を行う。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止とし、風下の人を退避させる。 作業者は必ず保護具(手袋、防毒マスク、防毒衣、保護眼鏡)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	漏出した液が環境中(下水、排水溝、地下)への流出を防止する。 万一公共用水域等に流出した場合、必要な時は関係行政機関に連絡する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	少量の場合は布や砂等で直ちに拭き取り、容器に収納する。 大量の場合は土砂等で堰を作って流出防止を図り、可能な限り回収する。
二次災害の防止法	付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
7. 取り扱い及び保管上の注意	
取り扱い	
技術的対策	保護具を確実に着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照) 火気、火花、アーク、高温のもののような着火源から遠ざけること。 静電気対策を行い、防爆型の機器を使用すること。
局所排気・全体換気	容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気、全体換気装置の付いた場所で作業する。
注意事項	蒸気を発生させないようにする。
安全取り扱い注意事項	容器を転倒、落下させて衝撃を加える等の乱暴な取り扱いを行わない。
保管	
技術的対策	保管場所は耐火構造とし、床は床面に水が浸入しない構造とする。
適切な保管条件	容器に漏れの無いことを確認する。危険物施設に施錠して保管し、火気を近づけない。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	局所排気装置、防災シャワー、手洗い、洗眼設備の設置
管理濃度	作業環境評価基準 150ppm
許容濃度	日本産業衛生学会(2005年版) 100ppm ACGIH(2005年版) 時間加重平均(TLV-TWA) 150ppm 時間暴露限界(TLV-STEL) 200ppm
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手足の保護具	保護手袋・長靴(有機溶剤不浸透型の静電気対策を施したものが望ましい)
目の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	有機溶剤不浸透型保護衣(静電気対策を施したものが望ましい)
9. 物理的及び化学的性質	
外観	透明液体
臭い	溶剤臭
pH	データ無し
融点/凝固点	-78℃
沸点	126℃
引火点	22℃(密閉式)
自然発火温度	420℃
燃焼又は爆発限界	下限:1.2% 上限:7.6%
蒸気圧	1.2kPa(20℃)
蒸気密度	4.0
比重	0.88(20℃)
溶解性	0.7g/100ml(20℃)
オクタノール/水分係数	log Pow=1.82
分解温度	データ無し

10. 安全性及び反応性

安定性
危険有害反応可能性
避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

空気又は水分と接触すると徐々に分解し、酢酸及びn-ブタノールを生じる。
強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
高温
強酸化剤、強アルカリ、強酸
燃焼時に一酸化炭素、二酸化炭素を発生する

11. 有害性情報

急性毒性(経口)
急性毒性(経皮)
急性毒性(吸入:蒸気)
急性毒性(吸入:ミスト)
皮膚腐食性/刺激性
眼に対する重篤な損傷/
眼刺激性
皮膚感作性
生殖毒性

ラット LD50 14.13g/kg であるので、区分外とした。
ウサギ LD50 17600mg/kg であるので、区分外とした。
ラット LC50 2000ppm(9.5mg/L) であるので、区分3に分類される。
ラット LC50 391ppm(1.85mg/L) であるので、区分4に分類される。
「ヒトの慢性的ばく露はmild skin irritating」との報告あり。区分3に分類される。
角膜の混濁は2日目に回復、虹彩には影響をみていない、また結膜の発赤は7日目、14日目には回復している。区分2Bに分類される。
皮膚の感作性は認められないとしている。
すべての条件で胎子の体重と頭尾長、胎盤重量は有意に小さかった。この他にも、多発的な顔面欠損、横隔膜ヘルニア、眼の欠損、脳異常形態を含む異常が認められたが、これらは対照群と比較して有意差を認めなかった。
ヒトのデータ 7) により中枢神経区分1、動物試験により区分2のガイダンス値の範囲で肺水腫がみられたので区分2、呼吸器刺激がみられたので区分3とした。

特定標的臓器/全身毒性
(単回暴露)

12. 環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(慢性)

甲殻類(オオミジンコ) LC50 32000 µg/L/48H であるので、区分3に分類される。
急速分解性があり(BODによる分解度=98%)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log kow = 1.78)ことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制
国連分類
国連番号
品名(国連輸送名)
容器等級
国内規制
陸上輸送
海上輸送
航空輸送
輸送の特別の安全対策及び条件
緊急時応急措置指針番号

クラス3(引火性液体)
1123
酢酸ブチル
II
消防法及び道路交通法の規定に従う
船舶安全法の規定に従う
航空法の規定に従う
容器の輸送及び運搬は、落下、転倒、破損しないよう固定して積載すること
容器の輸送及び運搬中に、容器の著しい摩擦や動揺を起こさないよう注意する
129

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質
該当せず

労働安全衛生法

名称等を表示し又は通知すべき危険物及び有害物(法57条 施行令18条、18条の2 別表9)

番号	物質名	表示対象	通知対象
第181号	酢酸ブチル	該当	該当

消防法

危険物第4類第2石油類

船舶安全法

引火性液体類

航空法

引火性液体類

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16項に該当するので、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい

16. その他の情報

問い合わせ先

公進ケミカル株式会社 製造部 技術グループ
電話 053-588-5541 FAX 053-588-1439

参考資料

- 1) 原料メーカー発行のSDS
- 2) 溶剤ハンドブック
- 3) NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP URL <http://www.nite.go.jp/>
- 4) 安全衛生情報センターHP URL <http://jaish.gr.jp/>
- 5) GHS区分は、経済産業省HPよりダウンロードしたGHS混合物分類判定システムを参考

記載内容は現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、新たな情報を入手した場合は、追加又は改訂されることがあります。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また含有量、物理化学的性質は保証値ではありません。特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。当安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。

作成日 2015年1月21日

改訂日 年 月 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

商品名	AC裏打ちコート専用硬化剤
会社名	公進ケミカル株式会社
住所	静岡県浜松市浜北区中瀬8310番地
担当部門	製造部技術グループ
電話番号	053-588-5541
FAX番号	053-588-1439
推奨用途及び使用上の制限	コーティング剤用硬化剤
商品コード	9351352

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分5
	急性毒性(吸入:ミスト)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1 中枢神経
		区分2 肺
		区分3 気道刺激性
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分外
環境に対する有毒性	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	区分外

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

危険

引火性の高い液体及び蒸気
 吸入すると有害のおそれ(蒸気)
 吸入すると有害(ミスト)
 軽度の皮膚刺激
 眼刺激
 吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 中枢神経の障害
 肺の障害のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 水生生物に有害

注意書き

安全対策

熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
 容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。

<p>指定された個人用保護具(保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面)を着用すること。</p> <p>ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。</p> <p>屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。</p> <p>取扱後は手、顔をよく洗うこと。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p> <p>火災の場合: 消火に炭酸ガス、泡又は粉末消火器を使用すること。</p> <p>皮膚(または髪)にかかった場合: 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい体制で休息させること。</p> <p>飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。</p> <p>眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>ばく露またはその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>吐かせないこと。</p> <p>換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。</p> <p>施錠して保管すること。</p> <p>内容物、容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。</p>	<p>応急措置</p> <p>保管</p> <p>廃棄</p>
---	--

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別
化学名又は一般名
成分及び含有量

混合物
イソシアネート系硬化剤

成分	含有量(%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
イソシアネート基末端ウレタン樹脂	55~65			
ヘキサメチレン=ジイソシアネート	<1	$C_8H_{12}N_2O_2$	(2)-2863	822-06-0
酢酸ブチル	35~45	$C_6H_{12}O_2$	(2)-731	123-86-4

4. 応急措置

<p>吸入した場合</p> <p>皮膚に付着した場合</p> <p>目に入った場合</p> <p>飲み込んだ場合</p> <p>最も重要な兆候及び症状</p> <p>応急措置をする者の保護</p> <p>医師に対する特別な注意事項</p>	<p>被災者を新鮮な空気の場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休憩させ毛布等で保温して安静にさせ、状態が悪い時は医師の診断を受ける。</p> <p>直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、皮膚と接触した場合は直ちに多量の水または石鹼水で洗う。</p> <p>炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。</p> <p>直ちに多量の流れ水で15分以上洗眼し、速やかに医師の手当てを受ける。</p> <p>無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受ける。口をすすぐ。</p> <p>データなし</p> <p>適切な保護具を着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照)</p> <p>医師の手当てを受ける時は、本SDSを提示する等情報を提供する。</p>
---	--

5. 火災時の措置

<p>消火剤</p> <p>使ってはならない消火剤</p> <p>火災時の特有の危険有害性</p> <p>特有の消化方法</p> <p>消火を行う者の保護</p>	<p>粉末、泡、炭酸ガス、乾燥砂</p> <p>棒状注水、水噴霧</p> <p>極めて燃え易い。熱、火花、火炎で容易に発火する。火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。</p> <p>初期の火災には、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を用いる。大規模火災の際には、泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。</p> <p>周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。</p> <p>消火作業では、適切な保護具を着用し、風上から消火活動を行う。</p>
---	---

6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置</p>	<p>関係者以外の立ち入りを禁止とし、風下の人を退避させる。</p> <p>作業者は必ず保護具(手袋、防毒マスク、防毒衣、保護眼鏡)を着用する。</p> <p>必要に応じた換気を確保する。</p>
------------------------------	--

環境に対する注意事項	漏出した液が環境中(下水、排水溝、地下)への流出を防止する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	万一公共用水域等に流出した場合、必要な時は関係行政機関に連絡する。
二次災害の防止法	少量の場合は布や砂等で直ちに拭き取り、容器に収納する。 大量の場合は土砂等で堰を作って流出防止を図り、可能な限り回収する。 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。
7. 取り扱い及び保管上の注意	
取り扱い	
技術的対策	保護具を確実に着用する(8. 暴露防止及び保護措置項参照) 火気、火花、アーク、高温のもののような着火源から遠ざけること。 静電気対策を行い、防爆型の機器を使用すること。
局所排気・全体換気	容器は常に密閉し、通気性の良い場所又は局所排気、全体換気装置の付いた場所で作業する。
注意事項	蒸気を発生させないようにする。
安全取り扱い注意事項	容器を転倒、落下させて衝撃を加える等の乱暴な取り扱いを行わない。
保管	
技術的対策	保管場所は耐火構造とし、床は床面に水が浸入しない構造とする。
適切な保管条件	容器に漏れの無いことを確認する。危険物施設に施錠して保管し、火気を近づけない。
安全な容器包装材料	消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
設備対策	局所排気装置、防災シャワー、手洗い、洗眼設備の設置
管理濃度	作業環境評価基準 150ppm(酢酸ブチル)
許容濃度	日本産業衛生学会(2005年版) 100ppm(酢酸ブチル) ACGIH(2005年版)
	時間加重平均(TLV-TWA) 150ppm(酢酸ブチル)
	時間暴露限界(TLV-STEL) 200ppm(酢酸ブチル)
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手足の保護具	保護手袋・長靴(有機溶剤不浸透型の静電気対策を施したものが望ましい)
目の保護具	側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具	有機溶剤不浸透型保護衣(静電気対策を施したものが望ましい)
9. 物理的及び化学的性質	
外観	液体
臭い	溶剤臭
pH	データ無し
融点/凝固点	-78°C(酢酸ブチル)
沸点	126°C(酢酸ブチル)
引火点	22°C(酢酸ブチル)
自然発火温度	420°C(酢酸ブチル)
燃焼又は爆発限界	下限:1.2% 上限:7.6%(酢酸ブチル)
蒸気圧	1.2kPa(20°C 酢酸ブチル)
蒸気密度	4.0(酢酸ブチル)
比重	0.8~1.2(25°C)
溶解性	水に不溶、アセトン等の有機溶剤に可溶
オクタノール/水分係数	log Pow=1.82(酢酸ブチル)
分解温度	データ無し
10. 安全性及び反応性	
安定性	通常の条件においては安定
危険有害反応可能性	強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	高温、加熱、直射日光
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強アルカリ
危険有害な分解生成物	燃焼した時、有毒ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)を発生する。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分4)、酢酸ブチル(区分外)であるが、製品は区分外に分類される。
急性毒性(経皮)	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分3)、酢酸ブチル(区分外)であるが、製品は区分外に分類される。
急性毒性(吸入:蒸気)	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分1)、酢酸ブチル(区分3)であるが、製品は区分5に分類される。
急性毒性(吸入:ミスト)	酢酸ブチル(区分4)であるが、製品は区分4に分類される。
皮膚腐食性/刺激性	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分1A)、酢酸ブチル(区分3)であるが、製品は区分3に分類される。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分1)、酢酸ブチル(区分2B)であるが、製品は区分2Bに分類される。
呼吸器感受性	区分1に該当する成分(ヘキサメチレン=ジイソシアネート)がカットオフ値(0.1%)以上含まれるため、製品は区分1とした。
皮膚感受性	区分1に該当する成分(ヘキサメチレン=ジイソシアネート)がカットオフ値(0.1%)以上含まれるため、製品は区分1とした。
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性をもつ成分のうち、0.1%以上(区分1)もしくは1%以上(区分2)含まれる成分が無いため区分外とした。
生殖毒性	生殖毒性をもつ成分のうち、0.1%以上(区分1)もしくは0.1%以上(区分2)含まれる成分が無いため区分外とした。
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1に該当する成分(酢酸ブチル)が1%以上含まれるため、区分1(中枢神経)とした。 区分2に該当する成分(酢酸ブチル)が1%以上含まれるため、区分2(肺)とした。 区分3に該当する成分(酢酸ブチル)が20%以上含まれるため、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1に該当し1%以上の濃度をもつ成分、区分2に該当し1%以上の濃度を持つ成分のいずれも含まれていないため、区分外とした

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性)	ヘキサメチレン=ジイソシアネート(区分外)、酢酸ブチル(区分3)であるが、製品は区分外3分類される。
水生環境有害性(慢性)	含有各成分の区分が「分類対象外」または「分類できない」または「区分外」または「カットオフ値未満」の含有であるため、製品は区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類	クラス3(引火性液体)
国連番号	1866
品名(国連輸送名)	樹脂溶液
容器等級	Ⅲ

国内規制

陸上輸送	消防法及び道路交通法の規定に従う
海上輸送	船舶安全法の規定に従う
航空輸送	航空法の規定に従う

輸送の特別の安全対策及び条件

容器の輸送及び運搬は、落下、転倒、破損しないよう固定して積載すること
容器の輸送及び運搬中に、容器の著しい摩擦や動揺を起こさないよう注意する

緊急時応急措置指針番号

127

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	第1種指定化学物質 該当せず
労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法57条の2 施行令18条の2 別表9) 第181号 酢酸ブチル 第519号 ヘキサメチレン=ジイソシアネート 名称等を表示すべき有害物(法57条の1 施行令18条) 9の10 酢酸ブチル 有機溶剤中毒予防規則 第2種有機溶剤 酢酸ブチル
消防法	危険物第4類第2石油類
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体類
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16項に該当するので、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい

16. その他の情報

問い合わせ先 公進ケミカル株式会社 製造部 技術グループ
電話 053-588-5541 FAX 053-588-1439

参考資料

- 1) 原料メーカー発行のSDS
- 2) 溶剤ハンドブック
- 3) NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)HP URL <http://www.nite.go.jp/>
- 4) 安全衛生情報センターHP URL <http://jaish.gr.jp/>
- 5) GHS区分は、経済産業省HPよりダウンロードしたGHS混合物分類判定システムを参考

記載内容は現時点で入手できる情報に基づいて作成しておりますが、新たな情報を入手した場合は、追加又は改訂されることがあります。注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また含有量、物理化学的性質は保証値ではありません。特別な取り扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上でご使用下さい。当安全データシートは、日本国内法規を基準に作成したものです。